

# ねりまの文化財

文化財を火災から守ろう

## 1月26日は文化財防火デー

例年1月26日は「文化財防火デー」です。毎年この日を中心として文化財を火災などの災害から守るため、全国各地で防災訓練が行われます。

戦後の混乱の中で、経済的基盤を失った文化財の所有者らがそれらを売却あるいは放置するという事態が各地でおこりました。

こうした状況の中で昭和24年(一九四九)1月26日、法隆寺金堂で失火があり、千三百年の歴史をもつ世界最古の木造建築に描かれた白鳳時代(7世紀半ば〜8世紀初め)の壁画が焼損してしまいました。また、翌年には金閣寺が火災に遭うなど、文化財の焼損が相次ぎました。

この年、これらの事を契機として国は、文化財保護法を制定し、法隆寺金

堂修復が完了した昭和29年に、火災のあった1月26日を「文化財防火デー」と定め、貴重な文化財が火災等で失われないように広く国民に協力をお願いする日としました。

最近では、平成17年に国分寺市の埋蔵文化財の収蔵庫が火災にあい貴重な遺物が被害をうけました。

練馬区でも火災に備え、練馬・光が丘・石神井の各消防署や地域の防災組織による防火訓練が、防火デー前後に各管内の寺社等で行われます。

どなたでも自由に見学できますので、是非おこしください。

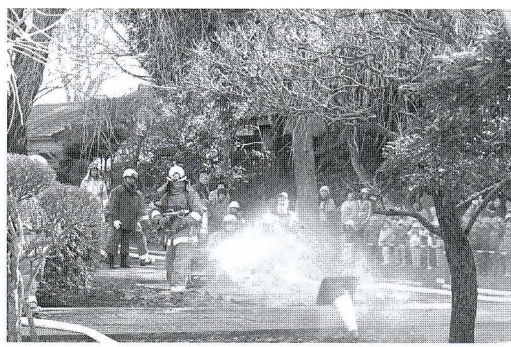
なお場所と時間については、ねりま区報1月21日号をご覧ください。

\* 問合せ先 文化財係

練馬区教育委員会  
生涯学習課  
(文化財係)  
Tel 5984-2442  
〒176-8501  
練馬区豊玉北6-12-1



本立寺 昨年の一斉放水訓練



南蔵院 昨年の放水銃訓練

### ◇文化講演会◇

### 特別展「平泉くみちのくろの浄土」

3月14日(土)〜4月19日(日)  
に、世田谷美術館で開催される展覧会  
に関連する講演会をNHKと共催しま  
す。参加者には展覧会の招待券1枚を  
差し上げます。

・日時 2月20日(金) 18時30分〜

・場所 練馬公民館

・講師 世田谷美術館主任学芸員

・定員 290名(抽選) 石井 幸彦

・申込方法

往復ハガキに①講演名②希望者

(2名まで)の住所・氏名(ふり

がな)・電話番号③代表者氏名の

住所を記入の上、文化財係へお

申込ください。

・申込期間

1月21日(水)〜30日(金)(必

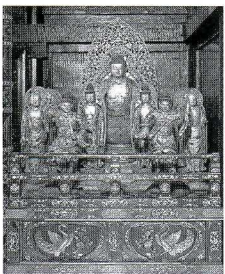
着。期間前は受付しておりません)

\*在勤・在学の方は勤務先や学校の住

所も合わせてご記入ください。

なお、ねりま区報1月21日号でも募

集いたします。



国宝 中尊寺金色堂西北壇諸仏  
中尊寺金色院蔵

# やっがやと 八ヶ谷戸遺跡 第四次調査 発掘調査速報

昨年11月6日から12月11日まで大泉町二丁目17番の陽和病院の病棟改築に先立って発掘調査を行いました。平成4年に第一次調査、平成8年に第二次調査、平成19年に第三次調査を実施し、今回は第四次調査です。

調査箇所は、第三次調査箇所の外側です。西側と南側部分は配管などの攪乱により遺構の残りはよくありませんが、北側部分で新たな縄文時代中期の堅穴住居跡や、土器が逆さに埋設された墓と考えられる土坑(写真右)が出土しています。

また、住居跡から縄文土器

がつぶれた状態

で出土しています。

縄文時代中期の「加曾利E3式土器」

が内面を上にして割れた状態

で出ています。

この周辺からは打製石斧

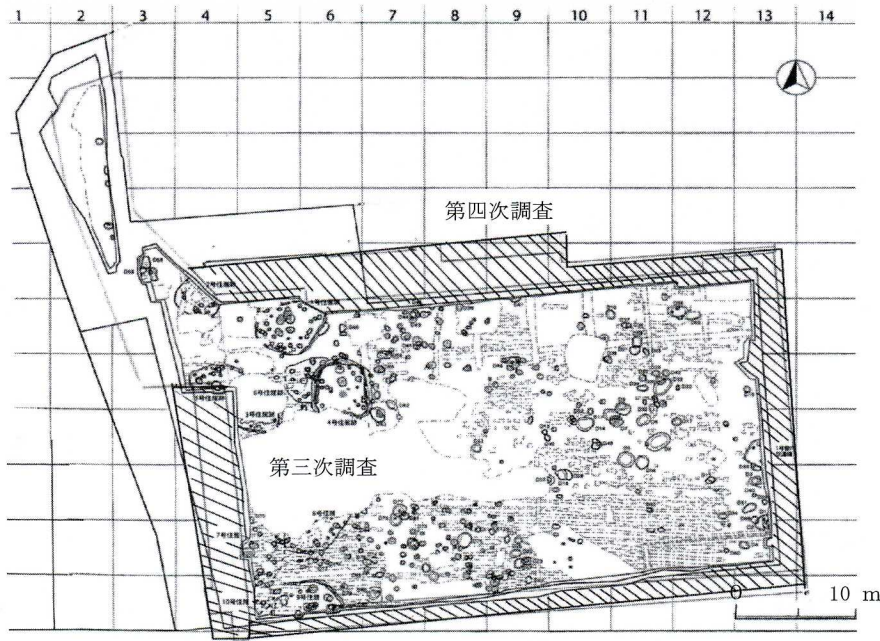
と垂飾りが出土

しています(写真左)。

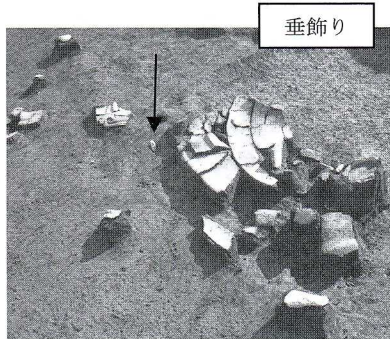
平成22年度には

整理作業を行います。

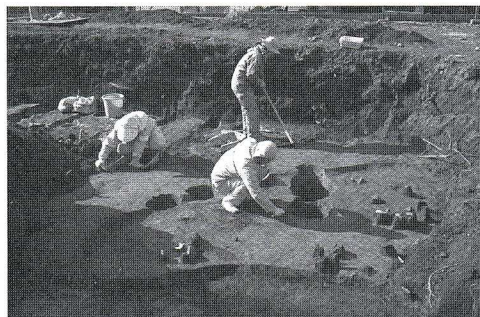
報告書を刊行する予定です。



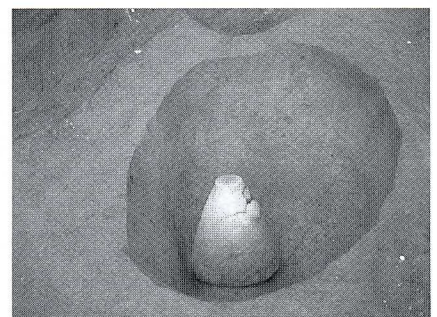
第三次調査全測図と第四次調査の位置(斜線部分)



垂飾り・縄文土器・打製石斧



住居跡の調査風景

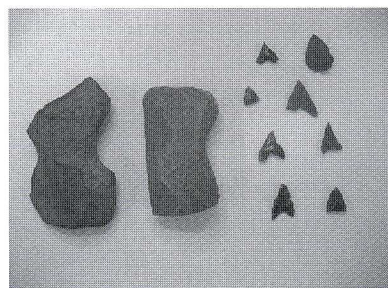


墓と考えられる土坑

## 寄贈遺物の紹介

千葉県在住の方から遺物の寄贈を受けました。昭和初期頃現在の区内に住んでいた寄贈者の叔父が、中野区江古田周辺で採集した遺物です。所有者が大切に保管されていたものです。

写真の右上は旧石器時代の尖頭器(槍先)です。その他は縄文時代の石器で、小形なのが石鏃(矢の先)、左の2つは打製石斧です。



寄贈された石器類

### 区登録文化財

「中村南遺跡」の出土品  
「土器」を展示します

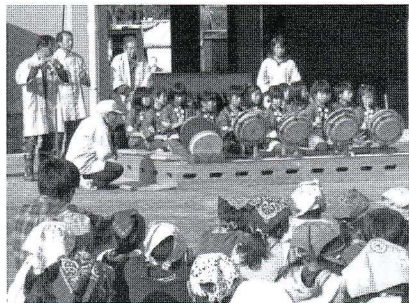
中村南スポーツ交流センター(中村南1-2-32)で、区の登録有形文化財「中村南遺跡第2地点5号住居址出土土器」など、施設建設に先立つ発掘調査により出土した遺物を展示します。

1月22日(木)オープン!

# 未来へつなげる伝統芸能

## 〜お囃子と子供たち〜

練馬区では、昭和63年度に「深湯(たんどう)の儀」を登録してから、現在25の登録無形民俗文化財があります。なかでもお囃子は15団体が登録無形民俗文化財保持団体に認定されており、活動をしています。今回は、地域の小学校と交流を深めている貫井囃子を紹介します。



おそろいのはっぴ姿で演奏

て、16人の児童が数小節ごとに交代し太鼓をたたきました。演奏が終わると、全校児童や見学に来ていた地域の方たち、保存会の方たちから大きな拍手があげられました。

貫井囃子は貫井・高松地域に伝わる田渕流、中間(ちゅうま・早いテンポ)とゆっくりなテンポの間のテンポ)の祭囃子です。明治期に鷲宮囃子(中野区)から習って成立したとされます。

戦争の時期と、昭和50年代に後継者不足で一時中断した時期がありますが、昭和63年に保存会が組織され、戦前に演奏していた方も参加し、伝承しています。平成16年3月に区の無形民俗文化財に登録されました。



高校生も後継者！  
熱演する貫井囃子保存会の皆さん

# 三年に一度の鶴の舞

今年4月の第二日曜、氷川神社(氷川台四丁目47)の春祭で三年に一度の神輿渡御(みこしときよ)行列が催されます。神社から神輿をかついだ行列がお浜井戸(桜台六丁目32)まで歩きます。神輿が発祥地へ遷(うつ)ることから「お里帰り」とも称されています。

行列の途次で歌われる「神輿渡御の御供道中歌」は、中世の歌の詞章をよく伝えており、古くから歌い継がれていたことをうかがえます。

お浜井戸に行列が到着すると、祝詞の後で獅子舞と「鶴の舞」が奉納されます。「鶴の舞」は、江戸時代から伝わる鶴の擬態芸能で、雌雄一対の鶴に扮して冠をかぶった演者二人が、太鼓にあわせて紋付き羽織をひろげ羽ばたくように舞います。全国的にも珍しいこの舞の起源は未詳ですが、五穀豊穣や子孫繁栄などを願ったとされます。



鶴の舞

## 第9回 郷土芸能ねりま座公演

日時 2月22日(日)

13時30分〜16時40分

場所 練馬公民館 ホール

出演 白山神社囃子連

谷原囃子保存会

石神井台囃子連中

(右の3団体は区登録無形民俗文化財保持団体)

春日町こども囃子

小鹿野歌舞伎保存会

(埼玉県指定無形民俗文化財保持団体)

主催 練馬区教育委員会

協力 練馬区民俗芸能協議会

その他 入場無料・自由席

問合せ 練馬公民館

電話03(3991)1667

また氷川神社には、神輿渡御行列の様子を彩色豊かに描いた明治43年(一九一〇)12月の奉納絵馬があり、当時の春祭の様相を伝えています。

◇「鶴の舞」

(平成6年度区指定無形民俗文化財)

◇「神輿渡御の御供道中歌」

(平成4年度区登録無形民俗文化財)

◇「神輿渡御行列図絵馬」(非公開)

(平成12年度区登録有形民俗文化財)

【問合せ】氷川神社

電話03(3993)0391

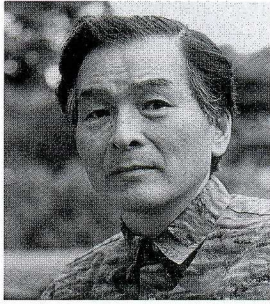
# 桂盛仁さん人間国宝に

区内在住の桂盛仁さんが、昨年9月11日に人間国宝(重要無形文化財保持者)に認定されました。

彫金家の桂さんは、江戸金工の伝統的な彫金技術を受け継ぎながら、新しい感性を取り入れ、独自の世界を作りあげています。彫金は、鑿(たがね)や金槌等を使い金属を立体的に造形したり、文様を素地に彫る装飾技術です。

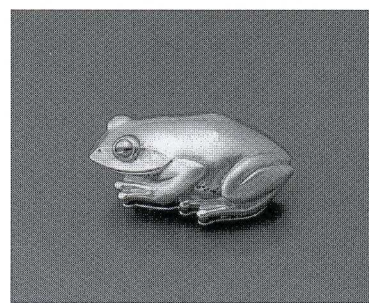
工房には、小さな引き出しが沢山ついていた「鑿ダンス」と呼ばれる道具入れがあり、中には数千本の鑿が大切に収納されています。どれひとつとして同じものがなく、全てご自身が入手した鑿を加工して、作ったものです。

使い込まれたそれらの鑿を用い制作される作品は、動植物や昆虫を題材に、金属のもつ独特の色彩を生かして、繊細で精巧な帯留めなどの小金具となり、その高度な技は高い評価を得ています。

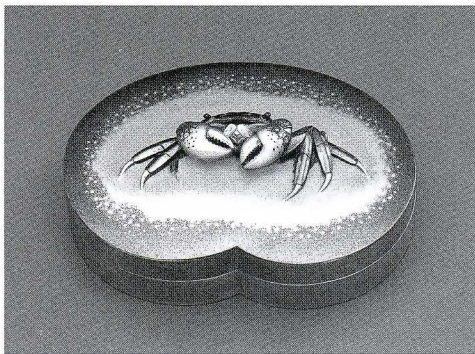


彫金家

かつら もりひと  
桂 盛仁さん



○ 蛙 帯留金具  
縦2.0 横3.8 高0.8cm



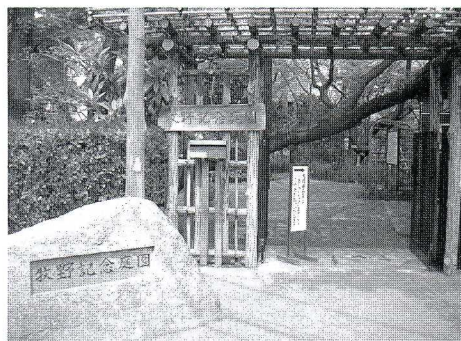
○ 蟹 盒子 縦7.0 横9.5 高3.5cm

桂さんは、昭和19年文京区に生まれ、父の盛行氏に師事し、文化庁長官賞や東京都知事賞などを受賞しています。日本伝統工芸展の鑑査委員を務めたほか、現在は創作の傍ら、大学や東京都内の専門学校などで後進の指導育成に尽力されています。

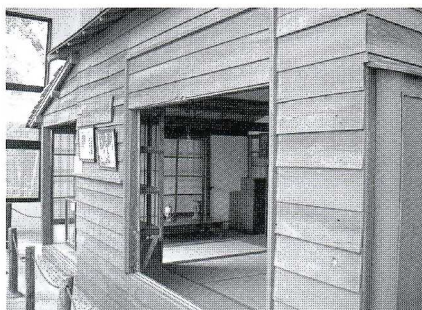
# 牧野記念庭園 国・登録記念物に

昨年11月21日、国の文化審議会から牧野記念庭園(区登録文化財)を登録記念物(名勝地・遺跡関係)とする答申がありました。

牧野記念庭園は、「日本の植物分類学の父」として著名な牧野富太郎博士(文久2年〜昭和32年「一八六二〜一九五七」)が、大正15年から逝去するまで居住し、研究の場として30余年を過ごした居宅と庭の跡で、昭和33年に開園しました。



牧野記念庭園入口



牧野翁書齋

牧野博士は高知県の造り酒屋に生まれ、幼少期から草花に興味を抱き、後に国内各所で多くの標本や資料を集めて研究し、明治21年には「日本植物志図篇」の刊行を始め、翌22年に日本人として初めて新種に命名しました。大正15年の関東大震災を経て大泉に居を構えた後、「牧野日本植物図鑑」など多数の著作を残しています。

文化勲章受賞、名誉都民、また今年度名誉区民として顕彰されています。約2千200㎡の園内には、博士が発見し命名した草木など340余種が植栽され、記念館陳列室や「牧野翁書齋保存鞘堂(さやどう)」が公開されています。

問合せ 庭園事務所

(東大泉6-34-4)

電話03(3922)2920

(平成21年度改修工事の予定)

開園 午前9時〜午後5時  
入園無料  
休園 火曜日(祝日のときは翌日)と  
年末年始(12月28日〜1月4日)  
交通 西武池袋線大泉学園駅南口下車  
徒歩5分